

『ペレのあたらしいふく』



エルサ・ベスコフ 作・絵
おのでら ゆりこ 訳
福音館書店 1976年

そんなにまでして。

スウェーデンの絵本を紹介しましょう。大きくて
きれいな本です。

ペレという8歳ぐらいの小さな男の子が、自分で飼っている羊の毛から新しい服を作っていくのがストーリーです。もちろん、幾人もの大人の手により作業は進みます。ペレは作業を請け負ってくれる大人の要請に従い、草取りや子守りといったお手伝いをします。すこし強面の大人にお願いしなければならないこともあります。

「なにをいいますか。しょうのないこだよ。」「ばかだね、ペンキとそめこは ちがうんだよ。」・・・

こうして、ちょっとしたまちがいの乗り越え、村のみんなの協力でペレの新しい服はできあがります。

ペレの願いを聞き入れ、面倒なことを引き受けて協力してくれる大人たちと、ペレをみつめるペレより小さい子ども達。きれいなスウェーデンの風景と細かく書き込まれた村の風俗の絵には、何度ページをめくっても新しい発見があります。

子どもが育つには親や家族だけでは足りないようです。多くの人や自然の力が必要です。

優しくしてくれたり、時に厳しく接してくれたりする他人の手で子どもは育っていくのだな・・・と改めて気づかされ、嬉しい気持ちになる本です。きっと子どもだって自分の周りにある温かいまなざしに気付いていると思うのです。

さてこんなにまでして出来上がった新しい服を着て、羊に挨拶したペレはどこに行くのでしょうか？

仕立て屋さんが日曜日に間に合わせてくれた新しい服・・・ヒントは仕立て屋さんのページです。

2019年11月17日 梅崎 啓子